

海外安全対策情報（2021年第4四半期）

在ギリシャ日本国大使館

1 社会・治安情勢

新型コロナウイルスのオミクロン変異株による感染が拡大し、その対策として、ギリシャ政府は2021年12月から夜間の飲食店営業禁止等の国内制限措置を講じている。警察が取締りを行っており、違反者には罰金が課せられる。

ギリシャ政府の各種政策に対して、ワクチン義務化反対派等による抗議集会が散発的に行われているが、規模も小さく、治安への影響は少ない。

- (1) 凶悪事案は多くないものの窃盗事件が多発しており、特にアテネでは地下鉄・駅等での邦人のスリ被害が極めて多い。
- (2) アテネでは各種労働組合等によるデモや抗議集会が連日のように行われている。大半は平和的に行われるが、一部が暴徒化することもあり、一定の注意が必要。
例年のように11月17日の学生蜂起記念日、12月6日の2008年発生 of 警察官による少年射殺事件追悼日に、それぞれ比較的大規模な抗議行動、デモ行進が行われ、一部が警官隊と衝突した。
- (3) アナキストグループの活動が活発であり、様々な口実で、政府関連施設、企業、各国大使館等に対する攻撃を行っている。今後、何らかの理由で日本関連施設が標的となる可能性も排除できない。アテネやテサロニキでは、深夜に警察官に対する火炎瓶等による攻撃が散発的に行われている。
- (4) フェリーや地下鉄などの公共交通機関が全面的に運休する大規模なストライキが、度々行われている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 最新統計（2020年1-5月期）によると、主要犯罪発生数は前年同期比で以下のとおり減少したとのこと。一方で、パンデミック禍で在宅時間が増えたためか、インターネット詐欺が急増しているとのこと。
 - ・ 侵入窃盗 20, 319件（-18%）
 - ・ 強盗 845件（-26%）
 - ・ 自動車盗 5, 349件（-15%）
- (2) パンデミック禍で当地への邦人旅客数は大幅に減少しており、現在、邦人被害は一時的に少なくなっているものの、アテネでは邦人のスリ被害が極めて多く発生しており、特に地下鉄車内や駅、シンタグマ広場周辺に被害が集中している。主に腕

利きの犯罪集団による犯行であり、在留邦人や旅慣れた旅行者が多く被害に遭っている。

【代表的な邦人被害事案の手口】

ア 邦人被害では、アテネの地下鉄や駅におけるスリが最も多く、知らぬ間にリュックサックや鞆を開けられ財布等を盗まれている。被害防止のため、リュックサック等を身体の前でしっかり保持することが重要である。

イ シンタグマ広場やオモニアでは、話しかけられたり、液体をかけられたりして、荷物から目を離した隙に鞆などを盗まれる被害が多発している。プラカ地区では飲食店での置引き被害が多く発生している。ホテルの朝食会場でも被害が出ている。

ウ サントリーニ島のイアでは、人混みのなかでの路上スリが急増している。鞆、特にリュックサックは身体の前で保持することが重要である。

3 テロ・爆弾事件発生状況

12月31日深夜にアテネの国鉄駅近くの教会前において簡易爆発物が使用され、教会外壁などが被害を受けた。これまでのところ、犯行動機などは不明。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人等に対する誘拐事件及び脅迫事件は把握していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

具体的な問題は把握していないが、当地では、環境問題や労働者の待遇、解雇や作業事故などを口実として、アナキストが企業を攻撃するケースが多く発生しており、注意を要する。